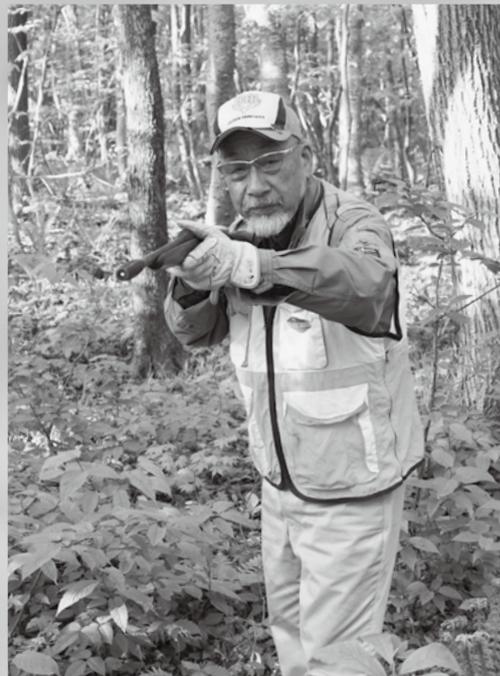


マタギ歴 48 年

これからも 命をかけて千歳市民を お守りします

北海道猟友会千歳支部支部長

坂井 憲一 さん



旧狩太町（現ニセコ町）出身 / 75 歳 / 信濃在住 / 1976 年から北海道猟友会千歳支部に所属し、48 年間道内各地で鹿や熊を追い、山野を駆け巡る / 趣味は魚釣り、山菜採り、家庭菜園 / 80 歳までマタギを続けることが目標

― 猟友会の業務内容など

市民を守る「鳥獣被害対策実施隊員」および「クマ防除隊員」の推薦のほか、農協から依頼される鹿、キツネ、カラス、ハトなどの駆除、民間企業から依頼される熊に対する護衛（追い払い、駆除）などを行っています。近年は熊の出没が増加し、昨年は3回の熊護衛依頼がありました。捕獲経験者の高齢化が進んでいるため、若いハンターの捕獲訓練教育の必要性を強く感じています。

― 近年の熊出没状況・傾向

向陽台地区や道道支笏湖線での目撃や車両との衝突事故が増えています。昔は熊は山奥にいるイメージでしたが、今では人間の生活圏内に現れます。原因は、熊の増加と食料源であるドングリやくるみなどの不足、広葉樹の減少などからではないで

しょうか。私は、広葉樹を植えることを推奨します。

― 日常生活でできる対策

ごみのポイ捨てをしない、コンポストの置き方を工夫する、ごみ出しのルールを守るなどが大切です。特に空き缶や生ごみ（臭いの出るもの）は、取り扱いに注意が必要です。

― 気をつける時期と場所

春先の早朝・夕方は特に注意が必要ですが、近年は昼夜関係なく出没しています。山菜採りなどでは単独行動は避け、複数人で行動し、鈴やラジオ、熊スプレーを持参することを勧めます。また、春先の親子熊は特に危険です。足跡や糞を見つけたときは直ぐに市へ通報してください。

― 熊と遭遇した時の対処法

大声を出す、走って逃げる、石を投げるなど、熊を刺激する行動をとってはいけません。熊が近づいてきたときは、熊撃退スプレーを風向きを考慮して、目、鼻に向けて噴射することが効果的です。

― 猟友会に興味のある方へ

昭和50年代に250人いた会員が現在では66人となり、このままでは野生の王国となってしまいます。若い方の入会を切望します。狩猟やジビエに興味のある方は、事務局まで連絡を（毎週火曜日10時から15時まで。☎(24)00037）。

先生、教えて!



市立千歳市民病院 地域医療連携課
☎(24)3000 内線 8138

COPDについて



市立千歳市民病院
診療部長（内科系担当） 竹藪 公洋

皆さん、COPD（慢性閉塞性肺疾患）という病気を聞いたことがありますか。

COPDは、酸素と二酸化炭素を交換する《肺胞》が壊れる肺気腫と、気道に慢性的に炎症を起こして痰が増える慢性気管支炎を併せた病気の総称です。

テレビや新聞などでの啓もう活動もあり、この病気の認知度は、平成21年の17・1%から令和5年の33・1%に増加しました。それでも聞いたことがない方は3人に2人です。

身近なCOPDの有名な人といえば、落語家の歌丸さんです。先進国では原因の90%以上が喫煙で、歌丸さんは「1日タバコを吸わないのは寝てるときだけ」というほどヘビースモーカーでした。この病気は、咳、痰、息切れがだんだん強くなり、進行すると少し

の動きでも息が切れるようになります。歌丸さんの晩年は楽屋から高座までのわずかな距離の移動で息切れし、酸素吸入をしながら高座にのぼられていました。

一方で、COPDを予防するため、できるだけ早いうちに禁煙することの大切さを訴え、病気の啓もうに務められました。歌丸さんは最終的にCOPDの進行による呼吸不全で亡くなられています。早く禁煙しなかつたこと、後悔し、早期発見、治療ができる体制づくりを訴えてきました。

COPDの人が肺がんにかかる割合は、そうでない人の5倍多く、動脈硬化や虚血性心疾患、糖尿病、骨粗しょう症など呼吸器以外の疾患の合併率が高いことも問題となっています。

今回は、具体的な診断や治療などについてお話しします。

第21回